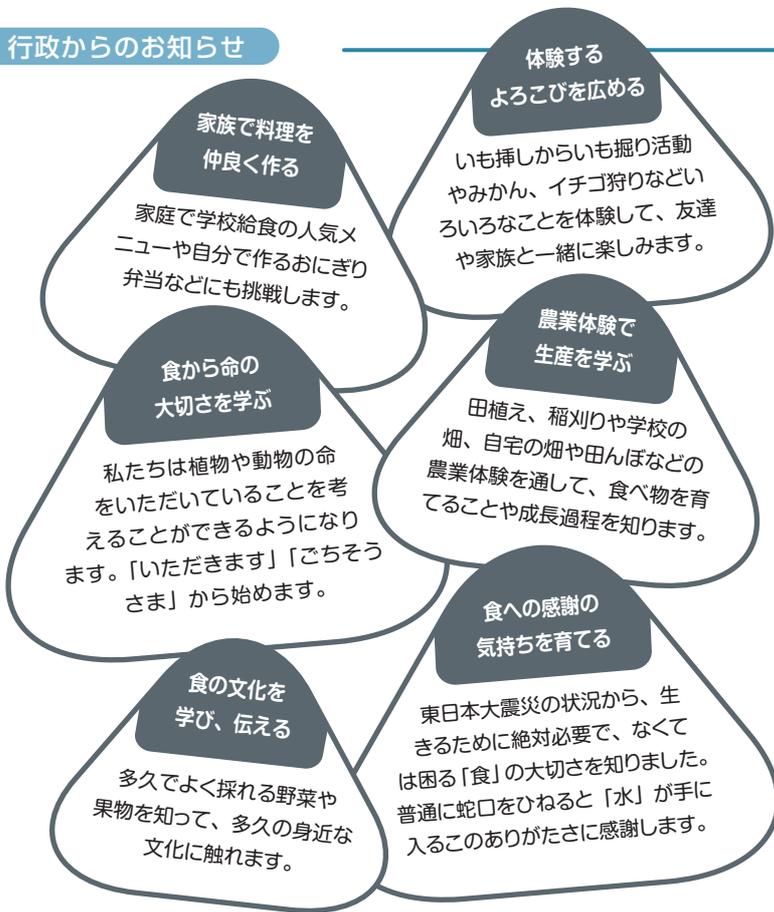


●ミニ特集●

食の関心を高めましょう

多久市食育推進計画では、『はじめよう食で育てる元気な子』をスローガンに、未来を育む子どもを中心に生涯にわたるライフステージのあらゆる場で「食育」の実践を進めています。

5月30日に開いた今年度の食育推進協議会（市内各団体の代表25人が構成委員）では、昨年度の実績と評価のまとめ、今年度の推進目標を『食の関心を高めましょう』と決めました。このため、各関係機関が取り組む教室などで、この目標が達成できるように次の6つの実践に取り組みます。



学校や保育園、幼稚園、PTA、地域、各関係団体はいろいろな機会を使って、いっしょに楽しみながら子どもたちに伝えていきます。

■多久市食育推進の指標と実績■

指標	対象	平成21年度	平成22年度
幼児の朝食を食べる割合を増やす	幼児	96.0%	95.6%
毎日朝食を食べている児童生徒の割合を増やす	小学5年生	89.7%	93.6%
	中学2年生	80.6%	89.1%
朝食でバランスの取れた食事をする児童生徒の割合を増やす	小学5年生	19.2%	16.5%
	中学2年生	18.9%	16.5%
朝食を家族そろって食べている割合を増やす	小学5年生	21.8%	22.6%
	中学2年生	26.7%	14.8%
標準体重の成人（BMI 25以下の者*）の割合を増やす	男性	73.4%	74.1%
	女性	73.3%	72.9%
県産食材を使用した「さが地産地消の店」の数を増やす	今後、現状値を調査をした段階で設定		
学校給食の地場産品の割合を増やす	多久市産	47.0%	27.0%
直売所の年間利用者数を増やす	たくさん館	(4～9月) 27,119人	86,765人
	幡船の里	(1～12月) 51,814人	43,030人

*BMI（ボディマス指数）は、体重と身長の関係から算出したヒトの肥満度を表す指数で、身長の2乗に対する体重の比で計算します。（BMI＝体重（kg）÷身長（m）²）BMI 25以上を肥満と判定しています。

割合が低くなっているのは、保育園・幼稚園、行政等の機関でたくさん取り組みが十分に保護者へ伝わっておらず、朝食摂取率の向上に結びついていないのでは？などと会議で指摘がありました。生活リズムと合わせた朝ごはんの大切さを伝えるような工夫が必要です。

割合が下がっているのは、世帯員のライフスタイルの多様化が背景にあることも要因ではないかとの意見もありましたが、バランスの大切さを含めて指導をしていくことが大切です。

給食センターがセンター方式のため、確保する食材の量が課題。今後、農林課や直売所などと協議をしていくこととなりました。

計画期間は平成22年度から5年間で、その後は5年毎に見直します。

食育活動のお知らせ

- ①多久市独自の『食育カルタ』を作成。6月からの活動で使っています。
- ②市報裏表紙に掲載している『ヘルシークッキング』のコーナーに食育推進協議会委員が毎回登場。今月号から取り組みなどとあわせ、おすすめメニューをご紹介します。
- ③中部小学校で6月24日、杉の子保育園で6月25日、『食育講座』を開催しました。市報8月号でその内容を紹介する予定です。